

なにわE C Oスクエア（生物多様性ネットワーク会議） を拠点とした新たな連携・協働の仕組みについて

- ◆ 大阪市では、平成30年3月に「大阪市生物多様性戦略」を策定。
- ◆ 生物多様性に関連する様々な主体が集い、情報共有を行い、つながりを拡大・強化していくため、新たな連携・協働の仕組みを創設することを目指し、平成30年度より本会議を開催。
（平成30年度実績：4回）
- ◆ できるだけ多くの人を巻き込んで取り組むことが重要
どなたでも参加していただける会議として今年度も引き続き開催。

「新たな連携・協働」の仕組み概念図

大阪市で暮らす人・働く人・学ぶ人、大阪市を訪れる人の役割

- ・生物多様性に配慮した環境にやさしいライフスタイル、ビジネススタイルの実践
- ・地域の環境保全活動への参加
- ・生物多様性に関する学習
- ・市が実施する施策への協力・提言
- ・大阪市の魅力発信

昼夜間人口比率の高さなど本市の特性を踏まえて、市内に暮らす人に加えて、市外からの通勤・通学者を含めて「市民」として位置付けます。

民間事業者の役割

- ・生物多様性に配慮した環境にやさしい企業経営の実践
- ・生物多様性に配慮した製品・技術の開発、サービスの提供
- ・地域の環境保全活動への参加・協力
- ・従業員への教育
- ・市が実施する施策への協力・提言

環境NGO / NPOの役割

- ・地域の環境保全のための活動の実践
- ・市民などへの行動促進のための環境教育・環境学習や環境啓発の実践
- ・多様な社会サービスの提供
- ・地域社会の活性化への貢献
- ・市が実施する施策への協力・提言

研究機関・研究者の役割

- ・未解明現象の解明
- ・生物多様性や生態系サービスが有する価値の評価
- ・研究成果の社会への還元
- ・科学的知見からの政策などへの提言
- ・生物多様性に関する研究開発や技術協力などへの貢献
- ・次代を担う研究者や技術者の養成

行政・教育機関の役割

- ・市民・事業者にも率先した取組みの実践
- ・市民・事業者などの取組みへの支援
- ・学校園における環境教育
- ・環境に関するわかりやすい情報の発信
- ・市民などが環境について学習できる場・機会の提供
- ・各主体の行動促進のための協力・連携
- ・環境保全施策の総合的な展開

めざすべき役割

- ・市民をはじめ様々な主体との連携、協働の拠点として活用
- ・自然体験観察園での体験学習

